

建築設計業

建築構造設計に特化した少数精鋭のスペシャリスト集団

登録企業の声



公式サイトや社長のSNSで
登録企業であることを
発信しています

本社：港区

従業員規模：10～30人

奨学金返還助成額[うち企業負担額]：年50万円[年25万円]×3年
専用枠(登録者を採用できる人数)：1年度当たり3名

本事業へ登録したきっかけについて、教えてください。

社員には入社後に一級建築士の資格を取得してもらうのですが、資格試験の勉強にはお金がかかるため、なにか経済的な援助ができればと考えていたところ、この事業を知りました。東京都の支援もあった上で企業が支援する仕組みもよいと思い、令和4年度から登録しています。

本事業をどのように活用されていますか。

弊社では採用支援会社を頼らず、会社の公式サイトとSNS、社長個人のSNSだけで採用活動していますが、これらの媒体で本事業の登録企業であることを発信しています。有難いことに、社長個人のSNSは建築系の就活生に見てもらえているようで、SNS経由で応募してくる学生が一定程度います。書類選考を経て、面接をする前に会社説明を行っていますが、そこでも登録企業であることをPRしています。

研修・教育面でなにか工夫されていることなどはありますか。

社員が講師となって、技術面の教育だけでなく経営理念も伝える独自研修を3か月間行っています。研修期間中は教育係と一緒に業務にも就いてもらい、技術レベルの評価も行います。研修終了後は、受注から納品まで、原則一人で担当してもらいますが、スケジュール管理やクレーム対応等を3人のチームで共有することで、若手社員が技術面に注力できる環境作りを心がけています。

登録を検討している大学生等の皆様へ、メッセージをお願いします。

金銭的な負担の軽減は、想像以上に大きなメリットだと思います。この事業の登録企業は、社員を大切にする企業といえるので、助成金額に関わらず、就職先を決めるポイントの一つにさせていただきたいです。

本事業の登録を検討している企業の皆様へ、アドバイスををお願いします。

非常によい制度ですし、おそらく想像するほど負担にならないはずです。弊社は、奨学金返還助成額が一番高いものを選んでいますが、それでも採用支援会社を利用した場合の経費に比べれば、全く負担になりません。また、その経費を、採用支援会社へ支払うのではなく、社員本人のために支払うという点でも、よい事業だと思います。

(注)

奨学金返還助成額[うち企業負担額]：次の①～③のうち、企業が登録申込時に希望する額を選択します。本事業では、企業の負担額と同額を東京都が負担し、東京しごと財団が奨学金貸与団体へ代理返還制度を活用した繰上返還により助成金を支出します。

①年10万円[年5万円]×3年、②年24万円[年12万円]×3年、③年50万円[年25万円]×3年

専用枠(登録者を採用できる人数)：登録企業が行う事業専用の若手技術者求人募集のことで、奨学金返還支援対象とする採用の人数をあらかじめ明示する必要があります。1年度当たり1社につき3名が上限です。



登録者の声



奨学金の返還を
支援していただけることで、
不安が軽減されました

採用職種：建築構造設計技術者

入社年月：令和5年4月

就職先を最終的に決めた理由について、教えてください。

就職を決めた一番大きい理由は、構造設計が出来るということです。院卒採用が多い構造設計の仕事を未経験の学部卒でも、弊社では積極的に採用していたのです。

弊社については、社長のSNSで知りました。建築構造設計技術者という硬いイメージがあったのですが、社長のお人柄が明るいことも伝わってきて、それもすごく良かったです。

建築構造設計技術者として就職して、よかったと感じた点を教えてください。

先輩の大きなサポートを受けつつ、自分を主軸として実務ができることが良かったです。先輩社員に随時気にかけていただき、分からないことがあればすぐ聞ける環境が整っていますし、納品前には会社としてのチェックもあるため、不安にならずに仕事に取り組みます。

大学で構造設計の面白さを感じていましたが、地震の多い日本で建物の安全・安心を守る仕事として、構造設計の仕事をしたいと思っていました。興味があるだけで実務を知りませんでした。社会貢献度も高いですし、構造設計に携われて楽しいです。

本事業について、どのようにお考えですか。ご意見やご感想をお聞かせください。

社会人になったら、自活しながら奨学金も返還しなければならないと考えると、不安が大きかったです。そうしたなか、まとまった金額について返還支援していただけることは、とても助かります。不安も軽減されましたし、こうした事業があること自体、新社会人を応援してくれている印象を持ちました。奨学金を全額返還して社会を支えていく立場になったときに、この事業を利用させていただいたことが、社会への恩返しを考えることにつながり、よい循環を生むのではないかと考えています。